

話題 5 5 琉球大学医学部および附属病院の移転に関して ～専門学校群の誘致で新たな展開を～

琉球大学医学部および附属病院の西普天間地区への移転計画が、より明確な形で公表され、平成36年度末の移転が明示されている。将来の沖縄県の医療界を牽引する役割と東南アジアを視野に入れた日本の南の玄関として、医療分野からの突破口としての飛躍を期待したい。

全国、どこの県においても医学部とその附属病院を中心に大学町が形成されてきた。地道ではあるが、景気の波に左右されない、独特の伝統と文化の発祥・発信の地として栄えていく。

危惧するところは、移転に伴い取り残された地域の衰退についてである。これまでの医学部と附属病院を中心として形成された近隣の住宅街、アパート群、飲食店、交通網等々。移転に伴う近隣の痛みを最小限におさえるためには、早急な跡地利用計画の立案が望まれる。

提案である。「文教の街・西原町」にふさわしい街づくりについて。東海岸地域への大型 MICE の建設が計画されている。大小様々なイベント、会議、学会、研究会等の受け入れが可能となる。現存の研修・修練施設としての「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」を現在地に残して、さらなる幅広い活用を企画してはどうだろうか。

関連して、医学部跡地には種々の専門学校を誘致し、「専門学校群」を形成してはどうだろうか。臨床放射線技師・検査技師・工学士養成専門学校。看護学校。柔道整復・針灸等を生かしたメディカル・スポーツ専門学校。歯科衛生士・歯科技工士等養成のための医歯薬専門学校。医療秘書・医療事務、診療情報管理士、社会福祉士・介護福祉士養成を含めた保健福祉専門学校等々。

医療分野に限ることはない。調理・美容・音楽・映画・アニメ・デザイン・保育等の多岐にわたる専門学校を挙げることができる。

期待するところは、若者に夢を切り開く機会を与えることにある。県内に限らず、東南アジアの若者にも、各種の専門教育を通して、豊かな未来へと導くための場の提供につながれば幸いである。跡地をはじめ、利用可能な建物、誘致に必要な有利な諸条件の整備の検討と各施設誘致の全国公募が急がれる。

青い海、青い空は沖縄の宝である。出会いを大切にする風土がある。軍事施設でもって防波堤を築き、要塞の島にするのではなく、平和の象徴としての沖縄の発展を夢見る団塊の世代の思いである。

琉球大学医学部および付属病院の西晋天間地区への移転計画が、より明確な形で公表され、2024（平成36年）度末の移転が明示されている。将来の沖縄県の医療界をけん引する役割と東南アジアを視野に入れた、日本の中の玄関として、医療分野からの突破口としての飛躍を期待したい。



石川 清治

論壇

危惧する点は、移転に伴い取り残された地域の衰退である。これまでの医学部と付属病院を中心として形成された近隣の住宅街、アパート群、飲食店、交通網等々。移転に伴う近隣の痛みを最小限に抑

琉大病院移転計画と跡地利用

発展へ専門学校群誘致を

えるためには、早急な跡地利用計画の立案が望まれる。そこで「文教の街・西原町」にふさわしい街づくりについて提案したい。東海岸地域への大型MICE施設の建設が計画されている。この施設

してはどうか。例えば臨床放射線技師・検査技師・工学士養成専門学校。看護学校。柔道整復・針灸等を生かしたメディカル・スポーツ専門学校。歯科衛生士・歯科技工士等養成のための歯科技工士等の養成を含めた医科、歯科、薬学関連の専門学校。医療秘書・医療事務 診療情報管理士、社会福祉士・介護福祉士養成を含めた保健福祉専門学校等々。医療分野に限ることはない。調理・美容・音楽・映画・アニメ・デザイン・保育等の多岐にわたる専門学校を誘引することができる。期待するのは、若者に夢を

(名護市、介護老人保健施設長、68歳)